

非IgE依存性消化管食物アレルギーのため当院に入院・通院されていた

患者さんの診療情報を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者 アレルギー科 医長

田中 裕也

連絡先電話番号 078-945-7300_

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨アレルギー科田中裕也までご連絡をお願いします。

1 対象となる方

西暦2014年4月1日から2019年3月31日までの間に、当院にて非IgE依存性消化管食物アレルギーと診断された方

2 研究課題名

非IgE依存性消化管食物アレルギーの症例集積研究

3 研究実施機関

この研究は、多施設との共同研究で行われます。研究で得られた情報は、共同研究機関内で利用されることがあります。

●研究代表者(研究の全体の責任者):近畿大学病院小児科 竹村 豊

●その他の共同研究機関:大阪警察病院小児科、大阪市立大学小児科、大阪赤十字病院小児科、大阪はびきの医療センター小児科、大阪府済生会中津病院小児科、神戸市立医療センター中央市民病院小児科、国保中央病院小児科、市立東大阪医療センター小児科、住友病院小児科、高槻病院小児科、兵庫県立こども病院アレルギー科、八尾市立病院小児科、PL病院小児科

4 本研究の意義、目的、方法

[研究の背景]

一般的な食物アレルギーは、アレルギーを食った後に、じんましんや皮膚の赤みなどの皮膚に症状が出るのが最も多く、それ以外にせきや鼻水などの呼吸器症状、下痢や嘔吐などの消化器症状、意識障害などの神経症状、血圧低下などの循環器症状などが出ることもあり、これらの症状が合わせて出る状態のことをアナフィラキシーと言います。

一方、牛乳(人工乳)では、特に乳幼児期にミルクを摂取した後に、血の混じった便が出たり、嘔吐したり消化器症状のみが出るアレルギーが存在し“消化管アレルギー”と呼ばれています。さら

に、牛乳以外にも穀類やうずら卵、魚介類などで同様の症状が出ることもあるとの報告はありますが、詳しいことはわかっていません。

[研究の目的]

特定の食品を摂取後に、消化器症状のみを呈する食物アレルギーの実態を把握して、より良い食物アレルギーの診療方法を確立することを目的としています。

5 協力をお願いする内容

診療録の閲覧、個人が特定できない形での診療情報の提供

6 本研究の実施期間

西暦 2019 年 8 月 1 日～2024 年 8 月 1 日 (予定)

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ(匿名化データ)として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報(連結情報)は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切開示いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

- 兵庫県立こども病院アレルギー科 田中裕也

電話：078-945-7300

- 研究代表者(研究の全体の責任者)

近畿大学病院 小児科 竹村 豊

電話 072-366-0221 (内線：3535)

以上